

保健活動リレーエッセイ

“まちの健康支えます！”

天草市 保健師 古田久美子

置かれた場所での保健師活動 ～いろいろな出会いを大切にしながら～

天草市は合併して11年目を迎えます。面積が広いので、保健師は3カ所の保健センターのほか、子育てや高齢、福祉と分散配置となっています。(熊本地震により本庁舎が倒壊する危険があるため、H28年7月から事務室までも分散配置となっています。)

私は、合併後の最初の3年間は保健分野にいましたが、その後は福祉課に異動、その後子育て支援課に新規保健師配置で異動……H28年度から再び福祉課で活動をしています。

保健と福祉では、対象も連携する機関もそして保健師の役割も大きく異なり、「福祉分野の保健師の役割って何かなあ」と考えさせられることが度々あります。細かい食事や運動指導よりも、命を守ることや人を育てること、家族の再統合の支援が優先されることの方が多いのです。

そのような中、個別支援、関係機関をつないで支援のネットワークづくり、福祉分野での現状・課題を保健分野にフィードバックして予防活動につなげる……これはやっぱり保健師の役割だと考えています。また、福祉には生活保護のケースワーカーや、制度に関してプロフェッショナルな事務職などがいて、保健師にとっても刺激がたっぷりの部署で活動できていることに充実感と楽しさを感じています。

現場ではいろいろな方とさまざまな場所での出会いがあります。関わりを望んでいない人も少なくない中で、あるとき人との関わりが嫌になった男性の相談がありました。入り口は重度のあかぎれと栄養不良でした。それから関係を築きながら、会える人を一人、二人と増やし、会う場所を家から外へと拡大。現在は福祉の事業所で就労されています。うまくいくことばかりではないですが、これらの関わりを通し、人の可能性を実感でき、信じられるようにもなりました。住民の方と共に笑い、時にはぶつかりながら歩いていく、そんな日々を楽しく過ごしています。

さて、今回リレーエッセイをお引き受けしたのは、嘉島町に災害の中長期派遣に行かせていただいたことがきっかけです。この派遣では、みなし仮設にお住まいの方の健康調査を中心にさせていただきました、知らない地域での保健師活動でしたが、『保健師です』という挨拶で受け入れてもらえ、自宅にも上げてもらえる、そんな保健師の魅力についてもあらためて考える機会となりました。これからもいろいろな方々との出会いを大切にしながら、保健師活動を楽しんでいきたいと思えます。



福祉課障がい福祉係の保健師。筆者は後列左

次号執筆者は熊本市西区の東貴子保健師です。